

平成22年度武蔵野市財政援助出資団体経営目標評価シート

団体名		財団法人 武蔵野市福祉公社						
① 事業	指標名	医療ケアを担えるヘルパーの育成			目標値	20人	実績値	51人
	過去の実績 (単位: 人)	平成19年度	平成20年度	平成21年度	達成率	255.00%	達成状況	未実施・未達成 達成
				15				
	取組内容	※22年度中の目標達成のための具体的な取組内容等について記入してください。 これからは在宅で医療ケアを実践するニーズが増大する。入院中の利用者も医療ケアの実践により自宅復帰が可能になり、本人福祉の実現に寄与する。公社は市内の民間事業者の研修機能を担っているため、市内の事業者にもノウハウを提供する。医療ケアを実践するために、ヘルパーができる医療行為初級①、②を開講し51名が受講した。この他昨年同様訪問介護との連携、薬の取扱の研修もおこない、53名が受講した。						
	一次評価	福祉公社のネットワーク機能を発揮し、専門職による研修を実施した。ヘルパーができる医療行為は増えてきて、実際に介護を担っているヘルパーの受講が増えているので、今後の医療行為に関する研修も定期的に開催していきたい。						
二次評価	目標の2.5倍の実績は、評価できる。参加者の声を聞いて事業に反映するなど内容の充実に努め、継続してより有効な研修となるよう努めること。							
② 財務	指標名	経常収支比率の改善			目標値	80.0%	実績値	90.4%
	過去の実績 (単位:)	平成19年度	平成20年度	平成21年度	達成率	113.00%	達成状況	未実施・未達成 達成
		93.8%	90.1%	90.4%				
	取組内容	※22年度中の目標達成のための具体的な取組内容等について記入してください。 ①有償在宅サービス事業の見直しによる料金体系変更の検討、また成年後見事業の拡大による後見報酬等の収入増など、事業収入の増加を図る。 ②事業経費の削減の検討を行う。						
	一次評価	※目標の達成状況・要因・今後の取組方針等について記入してください。 成年後見事業については、後見報酬の大幅な収入増により目標を達成した。有償在宅福祉サービスの料金体系の検討については、継続して行っており、その他の事業経費の削減についても、今後、より細かな精査を行っていく。						
二次評価	経常支出を経常収入で賄えない状況が続いている。引き続き改善に努めること。							
③ 人事	指標名	職員研修のさらなる充実（専門研修・視察研修除く）			目標値	300人	実績値	210
	過去の実績 (単位:)	平成19年度	平成20年度	平成21年度	達成率	70.0%	達成状況	未実施 未達成 ・達成
		265	211	276				
	取組内容	※22年度中の目標達成のための具体的な取組内容等について記入してください。 福祉公社の職員として、また武蔵野市の在宅福祉サービスに携わる者の牽引役としての自覚を高めるため、全職員（準職員を含む）を対象とした次の研修を実施した。 「理事長講話」、「苦情対応処理研修」、「コンプライアンス研修」、「ストレスマネジメント研修」 「認知症研修 1実践的アプローチ、2医学的アプローチ、3心理的アプローチ」						
	一次評価	※目標の達成状況・要因・今後の取組方針等について記入してください。 福祉公社職員としての自覚と目的の共有のために「理事長講話」を行ったほか、全職員にとって必要なコンプライアンス研修、ストレスマネジメント等の研修を実施し、職員の資質の向上を図ったが、22年度は公社の本社移転のため、第四半期に研修が実施できなかったため、受講者数が減となった。今後も、職員の使命感、倫理観を高める研修等を引き続き行う。						
二次評価	本年度は本社移転などがあった事情は理解する。移転を通して再確認した問題も見つめなおし、市民との関係性など福祉公社のあるべき姿を考えるような研修の実施も望まれる。							